



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治一六年
Citation	北大百年史, 史料(一), 643-667
Issue Date	1981-04-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30102
Type	departmental bulletin paper
File Information	siryo1_p643-667.pdf



明治一六年

五〇六 予科入学規則等問合に付回答

十二月廿日ノ書翰ヲ以テ問合相成候件々左ニ回答致シ候

第一第二 來書之通

第三 予科入学ハ十二歳以上ニシテ凡小学中等科卒業ノ学力アリテ

且ツ少シク英学ヲ学ヒ凡キルソン読本ノ一二冊ヲ訳読シ得ルモノ

予科修業年限ハ四年トス

予科生ハ総テ外宿シ月ニ五拾錢ヲ納ム

第四 本科ハ四年間ノ課程トス

第五 対訳字書初学読本習字本等ハ払下ケ其他ハ総テ貸渡スモノト

ス筆墨紙ハ自辨

第六 学期ノ初ハ毎年八月下旬ニアルヲ以テ本科入学試験ハ七月初

旬ニ之ヲ行ヒ不足ノ節ハ東京ニ於テ募ルコトアリ

予科ハ八月下旬ニ入学試験スト雖モ学力アルモノハ平常ニ於テモ

之ヲ許ス

第七 本科入学年齢ハ必ス十六歳以上トス

別項第一第二 他ニ英漢学校無シ

第三第四 東京ニ比スレハ物価大ニ貴シ下宿料ハ一月凡五六円トス

故ニ諸費凡十円ヲ要スヘシ

本校予科ハ普通ノ英語数学漢学等ニシテ他ノ予科ニ異ナラサルヲ以

テ必シモ遠ク來ルヲ要セス他所ニ於テ之レヲ学フモ妨ケナシ
規則書ハ改正後未タ印刷無之候事

十六年一月八日

札幌農学校事務掛

轟賛治殿

島 豊殿

〔農一三三〕

五〇七 校園内製糖所を閉鎖し製糖器械を屯田事務局に貸与
の儀伺

明治十六年二月十七日

加藤重任[㊞]

管理局長[㊞]安田

㊞札幌農学校

札幌農学校園内製糖所ヲ閉チ製糖器械ヲ屯田事務局ニ
貸与スル義ニ付伺

去明治十二年札幌農学校附属校園ニ於テ甘蔗ヲ米國ニ購求シ試験ノ
為メ種植セシニ成熟甚タ宜キヲ以テ尋テ製糖所ヲ園内ニ設立シ製糖
器ヲ買入シ年々施業候処爾來農民ニ於テモ漸ク其利益ヲ悟リ殊ニ同
所屯田兵ノ如キハ逐次盛大ニ栽植シ多量製出候様立至リ候抑校園製
糖所ハ単ニ農民ヲ鼓舞シ與産ヲ奨励スルノ趣意ニシテ今日ノ形況ニ
至リテハ最早必用ニモ無之依テ該所ハ廃止シ器械ハ当分陸軍省所轄
屯田事務局ニ貸渡シ候者彼此ノ便益不少ト存候条右御許允相成度此

段相伺申候

〔農一三六〕

五〇八 生徒より申出の農書購入の儀伺

校第十三号

十六年二月廿二日

森校長殿

井川幹事⑥

学科参考ノ為別紙目錄甲乙ノ通書籍御買上相成度旨生徒総代ヨリ願
 出取糺候処近來卒業生ノ内各府県ヘ採用相成候モノ等却テ日常ノ農
 事不案内ノ為大ニ差支候向モ有之其旨追々当方ヘ向ケ忠告候ヨリ起
 リ候趣元來貸費生ノ儀ハ必スシモ来意ノミニ従事セシムルノ目的ニ
 無之ニ付テハ願意至当ノ儀ト存候条総価額凡五拾円マテノ処御取舍
 ノ上買上方御取計相成度尚旧勸農局及ヒ農務局出版書ノ内別記丙号
 ノ分ハ未タ配付ニ不相成候条可相成ヘ御請求被遣度旨同様願出候ニ
 付併テ申進候也

追而本文金員之義ハ一時月謝金之内より支払致置度候也

〔別紙〕

農書目錄

〔朱書〕
〔甲〕雜書類之部

一 農事主款 寺師宗徳 屯円三十五錢

全一冊

一 日本産物誌	文部省	二円拾七錢六厘	全十一冊
一 隄防溝洫誌	佐藤玄明	七拾五錢	全三冊
一 漁村維持法	佐藤信季	三十錢	全二冊
一 培養秘録	佐藤信淵	七十五錢	全四冊
一 稲苗新語	丸山祐義		全一冊
〔朱書〕校圖ニ在 土性辨	佐藤信淵	五拾錢	全三冊
一 土壤篇	志賀雷山		全三冊
一 垂統秘録	佐藤信淵	二拾錢	全一冊
一 田畯年中行事	同	三十七錢五厘	全一冊
一 化育論	同	七十五錢	全三冊
一 農家永統救助講法	織田完之	三錢	全一冊
一 勸農雜誌	同	十五錢	全一冊
一 農家矩	同	五十錢	全三冊
一 耕作必用	小倉勝全	四十錢	全一冊
一 農家備要	河野剛		全五冊
一 勸農新書	林遠里	三十錢	全一冊
一 農業自得	田村仁平	三十五錢	全一冊
一 農工全書	宮崎柳条	二円	全五冊
一 草木六部耕種法	佐藤信淵	三円二十五錢	全十六冊
一 桑苗簾伏方法	船津伝治平		全一冊

一 煙草錄	鹿兒島県	五円	全二冊	一 諸菜譜	貝原篤信	全三冊
一 種麻要編	開拓使	六十錢	全二冊	一 魚鑑	武井周作	全二冊
一 日本樹木誌略		八十一錢九厘	全二冊	一 本朝食鑑	小野千里	全十冊
一 桑樹培養法			全二冊	一 百品考	百莊	全六冊
一 湖州養蚕書和解	開拓使	五錢八厘	全二冊	一 綿圃要務	大藏永常	全二冊
一 育蚕要旨和解	同	十八錢	全二冊	一 欽定康儕錄		全六冊
一 養蚕新論	田島弥平	一円三十二錢五厘	全五冊	一 王氏農書	元王禎	全十二冊
一 蚕桑輯要和解	開拓使		全三冊	一 汝南圃史	周文華	全三冊
一 養蚕摘要	永井保興	一円	全三冊	一 〔朱書〕 〔丙〕農務局出版之部		
一 製糸家必携	同		全三冊	一 農政垂統記		全四冊
一 〔朱書〕 〔乙〕古書雜本之部				一 英國農業篇		全十一冊
一 農家益	大藏永常		全七冊	一 〔朱書〕校圖ニ在 逸農事図解		全三十冊 附錄一葉
一 農稼業事	児嶋如水 大藏永常		前五冊 後五冊	一 〔朱書〕 斯氏農書		四十九冊出版
一 秘伝花鏡	支那本翻刻		全六冊	一 勸業報告ノ内人工孵卵法		全一冊
一 大和本草	貝原益軒		全九冊	一 明治府県物産表		全一冊
一 救荒本草	支那本翻刻		全八冊	一 加葡萄酒栽培書		全五冊
一 本草綱目啓蒙	小野蘭山		全二十冊	一 草木移植心得		全一葉
一 広益国産考	大藏永常		全八冊	一 茶務食載		
一 農業全書	宮崎安貞		全十一冊	一 研 氏田圃虫書		全二冊
一 蕃薯考	青木昆陽		全一冊	一 蘆粟栽製簡易法附錄共		全二冊

一 紀州柑橘録

全一冊

〔農一三二〕

内 訳

金千八百円

校長俸給

五〇九 明治一六年予算修正に付伺

金九百六拾円

幹事俸給

百五拾円給 一人

明治十六年四月七日

二等属石川好問 印

八拾円給 一人

卿

會計課印(高邦)

金六千六拾円

教員俸給

輔花押

整査課印(大櫻)印(武田)印

金千貳百円

百円給 一人

書記官花押印(奥青輔)

金九百六拾円

八拾円給 一人

管理局長印(安田)印(鈴木印(内海)

金八百四拾円

七拾円給 一人

會計局長印(武井)印(杉山)花押

属印(波多野)印印印印
〔朱書〕
〔四月九日〕

金六百元

五拾円給 一人

〔朱書〕
〔四月九日〕

金千四百四拾円

四拾円給 三人

十六年予算御申牒ニ付上申書修正ニ付伺

金七百貳拾円

三拾円給 一人

北海道事業管理上ノ義ニ付本年一月二十九日付太政官御達ニ基キ予

金三百円

貳拾五円給 一人

算書類御進達ニ付過日御決判済大蔵卿御照会中ノ所今般御協議ノ趣

金七百八拾円

属官俸給

ニヨリ更ニ別紙按書之通御上申書修正可然哉御決判ノ上ハ最前ノ御

内

四等属 一人

上申書御消印ノ答ヲ以此段相同候也

金四百八拾円

七等属 一人

〔別紙〕

金三百円

御用掛俸給 一人

〔前略〕

金三百六拾円

三拾円給 一人

札幌農学校

金千六拾八円

雇員俸給

一 金貳万三百貳拾八円

俸 給

金千六拾八円

雇員俸給

内

金四百五拾六円

拾九円給

貳人

金四百三拾貳円

拾八円給

貳人

金百八拾円

拾五円給

壹人

金九千三百円

雇外国人俸給

内

金三千六百円

三百円給

老人

金三千三百六拾円

貳百八拾円給老人

金貳千三百四拾円

増加見込

一 金三千七拾五円

雑給

内 訳

金三百円

管内旅費官員御用掛職員其他一切ノ旅費

金三百三拾円

管外旅費同上

金百円

満年賜金

金千百貳拾円

雇給給仕小使諸職工其

金三百貳拾五円

諸手当反訳字料其他諸手当

金百円

諸手数料新聞紙広告料諸品入札払手数料

金八百円

雇外国人給与報酬ノ類

一 金壹万三千貳百貳拾九円 教場 費

内 訳

金千六百七拾円

備品教授用書籍書籍函椅字ノモノ等ノ類

金貳千百七拾円

消耗品筆墨紙薪炭油蠟燭茶雜巾布巾等ノ類

金四百円

印刷費学校報文印刷等

金三拾五円

郵便税郵便便為替書留別配達ノ類

金八拾円

電信料内外首信料雇賃共

金百拾円

運搬費物品運送荷車荷船雇賃海關稅荷造用品等

金九拾円

接待費外国人接待用茶菓子煙草料理等

金百六拾円

賄費宿直并当料并臨時賄料等

金七千貳百円

学資貸費生學資

金百円

療養費生徒罹病者医藥手当

金千貳百五拾円

各所新営修繕一ト廉目途五百円未満ノ分

金拾八円

雜費官物拾取ノモノへ報酬及備地借家料等

一 金九千四百円

校 園 費

内 訳

金四拾九円

管内旅費

金三拾貳円

諸手当雇ノ者事務勉勵手当

金五千九百三拾五円

雇給農夫及手伝人足臨時雇賃

金六拾円

死傷手当官役人夫其他公事ノ為メ死傷ノ節給スル分

金百貳拾五円

備品椅子テブル時計諸帳簿文備品書籍函火鉢土瓶茶碗等ノ類

金千五円

器械費農具器械新調修繕共

金五百拾四円

消耗品紙類蠟燭油ノ類

金三円

郵便税郵便書留別配達料等

金拾円

電信料内外音信料居貨共

金七百六拾七円

耕牧費飼料肥料病畜費等

金百円

運搬費物品運送荷車荷船雇

金五百円

倉庫新営

金三百円

各所新営修繕

金六円

雜費借庫料官物拾取ノ類

合計金四万六千三拾弍円

〔後略〕

〔道〇八四八九〕

五一〇 教職員任命の通知

校第貳拾六号

今般新任転任等別紙之通り候条此段御通知候也

明治十六年四月十四日

会計事務取扱

〔別紙〕

拜命通知

山崎 益

御用掛取扱判任ニ准シ月俸金貳拾五円北海道事業管理局事務取扱札幌農学校在勤申付候事

明治十六年二月廿五日

農商務省 池田鷹次郎

任札幌農学校助教月俸金三拾円給与候事

明治十六年三月廿六日

右兩人東京ニ於テ拜命本月六日着札

札幌農学校幹事 井川 冽

札幌農学校幹事月俸金八拾円下賜候事

明治十六年三月廿三日

農商務省 工藤 精一

札幌農学校助教月俸金八拾円給与候事

同年 同日

前同断月俸金七拾円

同上 金四拾円

同上 金四拾円

農商務省 橋 協

北海道事業管理局事務取扱札幌農学校在勤申付候事

同年 同日

同 七等属 加藤 政敏

農商務省

前同断

同日

前同断月俸金三拾円

同年 同日

右何れモ四月七日辞令落手

右之通り候也

十六年四月十四日

農商務省御用掛 大瀧 修三

〔農一三三〕

五一 一 ペンハロー依頼の骸骨請求に応じ難き旨回答

校第三拾三号

明治十六年五月十日

校長印(森)

農学校印(参)印(加藤)

幹事印(井川)

ペンハロー氏ヨリ依頼ノ骸骨請求ニ応シ難キ旨通報案

ハーワード大学校備用ノ為北海道土人骸骨送致ノ儀ペンハロー氏ヨ

リ依頼ニ付而者本校備之分可差送旨東京より照会相成候処右ハ本校

ニ於テモ頭骨僅ニ壹箇之外無之且ツ昨年照会之節ハ本校既ニ農商務

省ニ転轄財産悉皆同省ヘ引継候ニ就而者右請求ニ応シ難ク候条此旨

可然同氏江御通知被遣度及御依頼候也

明治十六年 月 日

在米国 佐藤昌介殿

札幌農学校校長森源三

〔農一三三〕

五二 生徒招募の地を東京に限る旨上申

明治十六年五月廿三日

御用掛小林源蔵印

管理局長 印(安田)印(最上)

整査課 印(大槻)印(武田)

札幌農学校生徒招募之義ニ付上申

札幌農学校

右者各府県ニ於テ招募之義ハ当分難被行候ニ付単ニ東京ニ於テ招募之管已ニ決定夫々被相運候次第ニ有之候間此事由者今般局長御巡回候節校長直々御演達相成候様致度別紙回覧旁此段上申候也

〔別紙〕

札幌農学校生徒招募之義上申

札幌農学校ノ生徒招募ハ単ニ東京ニ限ラズ各地方ニ於テモ招募シ而

シテ卒業ノ上其地方ニ帰籍就職セシムル順序相立候得者北海道ノ景

況普及ノ便ヲ得テ拓地殖民ノ道開進スヘク又其地方モ真成ノ農学者

ヲ得テ実益ヲ博スヘシ因テ其方法可取調旨曾テ田中農務局長札幌農学校農務局

ノ管理 御下命有之趣伝承仕候右ハ実ニ一挙両全ノ良法ト存候得共奈何

セン該生徒ニ及第スヘキモノハ凡ソ東京大学予備門第一級第二級生徒程之資格ヲ備ヘサレハ入校許可ヲ得ルコト能ハス即チ試験ノ科目ハ英學（読書解話作文翻譯等）算術（方程式迄）地理歴史漢學ニ有之稍斯ノ高尚ニ位スル學問ハ各地方中学校或ハ私塾家塾等ニ於テ修ルコト殆ント難シ先ツ中学校等ヲ卒ヒ東京ニ來テ夫々研究シタル以上ニ非ラサレハ到底入校許可ヲ難得義ト相考候尤昨年東京ニ於テ拾余名召募之義公告シ乍ラ四拾余名ノ応募者有之因テ實際試験ヲ經シニ及第生三名ニ止リ終ニ學校ノ都合ヲ得ズ皆入校不指許候右四拾余名ノ応募者ニハ随分相應之學力ヲ有シタルモノ不少由ニ相關候得共仮令ハ作文ニ優等ニシテ解話ニ劣等ナルカ如キ歎有之折角之召募モ無効ニ帰シ遺憾不少次第二候実ニ東京ニ於テ研究シタルモノスラ如斯不結果ヲ呈シタル実験モ有之候間追テ各地方ニ於テスル修學相進候迄ハ当分從前之通東京ニ於テ召募致候ヨリ外良法無之候間宜布御聞置相成度候就テ今年ノ召募ハ凡ソ二週間三四ノ新聞紙ヲ以テ広告シ大ニ召募シテ予定^{今年モ拾余名召募ノ旨}及第生ヲ得候様処辨之積ニ付此段併テ上申候也

〔農二三五〕

五二三 生徒招募の期間延長並に旅費支給等の儀伺

明治十六年六月廿一日

一等屬細川碧

庶務課
會計課
整査課
卿

輔

書記官

管理局長

會計局長

屬

札幌農學校生徒召募ノ義再伺

札幌農學校生徒十余名召募ノ義ハ去月中既ニ広告取計爾來月余ニ相及候処出願セシ者即今僅ニ十三名アルノミニテ是等學力ノ淺深モ試験ノ上ナラテハ素ヨリ分明ナラス若シ及第者予定ノ人員ニ充タサルトキハ忽チ關員ヲ生シ自然本校ノ維持上ニモ相關シ候義ニ付其原因篤ト推考仕候ニ札幌ハ遼遠ノ地ニシテ旅費ノ準備モ容易ナラス今從前ノ慣行ニ拠リ当地ニ於テ試験ヲ了ヘタル者ト雖モ路次ノ費用ハ一切各自ノ支辨スルモノトスルトキハ尋常生徒ノ力ニ難堪仮令及第スルモ治裝渡航ニ苦シム等ノ情狀ヨリ躊躇請願セサルヤニ被存候間其試験及第セシ者ハ直ニ生徒ノ資格ヲ帶シメ更ニ札幌ニ派遣ヲ命シ旅費定則第十七章ヲ斟酌シ同定則第四章第二項ニ準拠シテ当地ヨリ便船ニ搭載セシメ乗船賃乗組日當其他總テ該章項ニ準シ支給候様仕度右御裁可ノ上ハ召募期限六月三十日迄ヲ更ニ廿日間延期シ左按ノ通

東京日々新聞郵便報知新聞時事新報ノ三新聞紙ニ於テ七日間広告候様取計可然哉差掛リ候事件ニ付至急御決裁相成度此段相伺候也

広告案

札幌農学校生徒召募候ニ付志願者ハ本月三十日限出願スヘキ旨
 広告候処都合有之来ル七月廿日マテ延期シ尚ホ東京ニ於テ召募
 セル生徒ニシテ貸費ノ許可ヲ得タル者ニハ海路札幌ニ至ル相当
 旅費ヲ支給ス

明治十六年六月

農商務省北海道事業管理局

〔農〇二〇一〕

五一四 地質学教員雇入に付上申

校第五拾号

地質科教員採用之件上申

先般工藤精一辞職ニ付後任トシテ地質科教員一名東京大学卒業生之内ヨリ御採用相成度人撰之儀ハ浜尾文部大書記官江委托いたし置候ニ付俸給等之儀ハ協議之上出京加藤政敏より更ニ可及稟議此段上申候也

十六年六月廿六日

管理局長代理鈴木大亮殿

札幌農学校校長森源三

五一五 宮部金吾を助教に採用の儀伺

校第五拾号

明治十六年六月二十七日

校長 ㊟(森)

幹事 ㊟(井川)

御用掛宮部金吾助教ニ被任度ニ付稟議

御用掛宮部金吾儀本草科教員補助為仕度候間農学校助教ニ被任月俸金三拾円ニ増給相成赴任被命度此段上申候也

札幌農学校校長森源三

管理局長代理農商務大書記官鈴木大亮殿

〔農一四一〕

〔農一四一〕

五二六 農学校経費一覽表（一四年七月～一六年六月）

明治十四年七月ヨリ
同 十六年六月マテ 経 費 一 覽 表

札幌農学校

費目	年 度		前 年 比 較 増		同 減	
	十 四 年 度	十 五 年 度	円	銭厘	円	銭厘
俸 給	九、六七一〇〇〇 〔朱書〕 九、三三六七七四	九、五四七〇〇〇 〔朱書〕 七、三四三〇〇〇			一二四〇〇〇 〔朱書〕 九、九三七七四	
雜 給	八、四三七四六九	七、九九九八四三			四三七六二六	
庁 費	二、六三〇七〇一	二、一一〇二〇〇			五二〇五〇一	
營 繕 費	一、六七二〇七七	四六一七五〇			一、二〇九三三七	
校 園 費	一三、九〇九三〇三	六、七二二一三三 四			七、一八八一六九	
一ヶ年合計	三六、三一九五五〇 〔朱書〕 九、三三六七七四	二六、八三九九二七 〔朱書〕 七、三四三〇〇〇			九、四七九六二三 〔朱書〕 一、九三三七七四	

備 考

- 一 營繕費ノ大ニ減額シタルモノハ十四年度ニテハ時計台新築等アルニ因ル
- 一 本表十五年度経費ハ未タ全ク決算ヲ完了セサルヲ以テ九月九日マテノ実支出ヲ掲クルモノトス
- 一 校園費ノ減セシハ十五年度ニ於テ本省各場ノ会計員等定額外ノモノ俄ニ本校ニ増加セシタメ器械購買屋舎營繕等ハ勉メテ之ヲ延シ非常節減セシニ因ル

明治十四年七月ヨリ
同 十六年六月マテ

附屬校園及温室收入金一覽表

札幌農学校

所名	年度		年度		前年比較増		同	
	十 四 年 度		十 五 年 度		円 錢厘		円 錢厘	
校 園	一七、五四三〇七一		一五、〇五四九〇九		円 錢厘		二、四八八一六二	
温 室	一七、七三八九五		一五、一八二六九		円 錢厘		四、七五三三五	
一ヶ年合計	一七、七三八九五		一五、一八二六九		円 錢厘		二、五三五六九七	

一 校園ニテ收入金十五年度ニ至リ減額セシハ代価ノ下落セシナリ

一 温室ニ於テハ草花類松下ヲ以テ目的トスルカ故ニ其蕃殖ノ景況若シクハ需要者ノ多ニ随テ年々差異アリ

〔農八五二〕

五一七 船津伝次平の農話傍聴に付回答

五一八 農具使用法伝習志願者に付伺

勸第貳千百六十号

園百卅七号

藻巖学校ニ於テ船津伝次平氏農話有之ニ付御校生徒中篤志者ニ限り

明治十六年八月十四日

四等属吉田清憲◎

傍聴ノ義校第五十二号御照会之趣致了承候然ルニ同校ハ御承知之通り

校長◎◎◎

農校園◎◎◎

リ室間狭少ニテ多人数傍聴差支候得共御校生徒ハ特別ニ付熱望ノ人

幹事◎◎◎

ニ限り出席候様御取計相成度此段及御回答候也

伝習志願人之義伺

十六年七月二日

札幌農学校御中

〔農一三三〕

札幌農学校御中

〔農一三三〕

別紙願書之通り大岩峻ナル者願出候ニ付取り調候処当園ニ於テハ更ニ不都合之廉無之候ニ付御許可相成様致度若シ御聞届ニ相成候上者別記指令按之通り取計度此段相伺候也

指令按

願之趣聞届候事

何年何月何日

農校園

〔別紙〕

農具運用法伝習願書

私儀開成会社開墾地内ニ於テ開拓農業一途ニ従事仕度就テハ御校園内ニ於テ西洋開墾農具運用方法自費ヲ以テ向ニ二ヶ年間実地脩業仕度志願ニ付何卒御採用被成下度此段奉願候也

本籍長野県信濃郡東筑摩郡北深志町二百五十四番地
当時札幌区北二条東一丁目七番地開成会社社内寄留

大岩 峻[㊦]

明治十六年八月十三日

身元引受人牛山民吉[㊦]

札幌農学校事務所御中

〔農一五〇〕

五一九 地質学教員採用の儀回答

拝啓愈御清勤奉恭賀候陳ハ先般地質学者名御需用之由云々御申越之趣も有之候付夫是取調候処理学士山田皓氏（当時農商務省御用掛月給五拾円地質調査所勤務）適當与存候右ハ地質調査所長和田氏へ相談候処本人ニ於而承諾致候へハ調査所ニ於而ハ差支無之由ニ有之

候尤も貴校へ御採用相成候ハ、北海道之事ニも有之俸給八拾円程交付相成度旨和田氏より被申聞候東京大学ニ於而本年之卒業生も二名有之候得共当人ハ昨年之卒業ニシテ年齢も較々長シ爾来地質調査所ニ奉務罷在候付旁教員ニ御採用相成候ニハ便宜与存候然而本人儀貴校へ転勤候与も調査所兼勤傍ラ北海道之地質ヲ調査候ハ、該所事務上便宜ニシテ本人研學上ニも都合宜シカルベク存候付可相成ヘ右様御取計相成度候右御報旁得貴意度如此候草々頓首

明治十六年九月十七日

浜尾 新

森学校長殿

〔農一三一〕

五二〇 學術研究のため無賃乗車に付回答

炭九ノ第三九五号

御校生徒拾八名學術研究ノ為メ明廿二日幌内炭礦マテ御差遣相成候ニ付無賃乗車之義校第八八号御依頼之趣致承知候則乗車証書老葉差進候間乗車済之上ハ御返却有之度候也

明治十六年九月廿一日

炭礦鐵道事務所^印

農学校御中

〔農一三二〕

五二一 土木数学物理学教師として外国人雇入の儀伺

学第四号

十六年十月四日

井川 冽^印長^印(森)

土木数学兼物理学教師トシテ外国人雇入之件上申

本校物理学兼土木数学教授之儀ハ一昨十四年七月米国人ピーボデー解任之後ハ一時内国人ヲ以之ニ充テ置候然ルニ該科ハ同校諸学科中一要部ヲ占メ殊ニ物理学中ニハ天文学初步氣象学等ヲモ含有いたし居候処本邦ニ於テハ目今其人ヲ得ル極テ困難之義ニ付昨年本校教師サンマース解任之節ニ於テモ別紙^(注)之通農務局江上請いたし置候通本校定額流用俸額銀貨凡式千四百円ヲ以米国人一名御雇入相成度御裁可之上ハ雇入手続等取調更ニ相伺候様可仕此段及稟議候也

管理局長代理

農学校長

〔注〕 別紙を欠く。なお四九二を参照。

〔農一四二〕

五二二 牛乳罐詰製造に付器械等借用の件照会

(一〇月二〇日起案)

校第一〇六号

今般本校園ニ於テ牛乳罐詰製造候ニ付罐材及臘附器械一式借用いたし度個数等委細ハ雇照井徳治より直ニ可及御協議右ハ工業事務所より御通知相成居候儀ト存候得共為念更ニ及御照会候也

十六年十月 日

札幌農学校

石狩罐詰所御中

〔農一三三〕

五二三 諸規則並に退学生徒氏名等交換に付問合

当三校ニ於テ是迄校則及ヒ内規類ヲ創設改正シ若シクハ不品行ノ廉ヲ以テ生徒ニ退学ヲ命スルコトアルトキハ其姓名等ヲ互ニ報道シ一ハ常時能ク彼我ノ氣脈ヲ通シテ学事ノ便益ヲ謀リ一ハ一省所管ノ学校ニシテ仮令ヘハ甲校ニテ不品行ノ為メ退学ヲ命セシ生徒ヲ乙校ニテ入校ヲ許可スル等ノ不都合ヲ避ケ来リ候義ニ有之就テハ貴校ニ於テモ本文ノ義御同意ニ候ヘ、自今三校同様右等ノ件其都度御報道ヲ交換致度右一応及御商議候間否御回答相成度候也

明治十六年十一月十六日

駒場農学校^印東京商船学校^印東京山林学校^印

札幌農学校御中

〔農一三三〕

五二四 演武場時計を汽車の標準時に使用の件申入

炭土ノ第五六〇号

当鐵道各停車場時計之義從來地理課之時計ニ符号致候様取計居候処
近來御校御備付之時計ト余程之差違有之夫カ為メ乗車人之内汽車へ
乗後レ候者往々有之候然ルニ御校時辰之義ハ市民之標準ト致居候義
ニ付自今各停車場時計之義モ御校之時計ニ致符合候様取扱候右ニ付
テハ御校時計之義者固ヨリ正確ナル義トハ存候得共尚一層御注意有
之候様致度御依頼旁此段申進候也

明治十六年十一月十九日

炭礦鐵道事務所印

札幌農学校御中

〔農一二三〕

五二五 北海道物産共進会賞状送致の件

勸第三千九百五十七号

本年函館開設ノ北海道物産共進會ニ於テ貴校々園ヨリノ出品物ニ對シ授与アリシ賞狀三枚別紙目錄之通回送候条御査収之上証書御廻シ相成度此段申進候也

明治十六年十一月廿六日

札幌県勸業課印

札幌農学校御中

〔別紙〕

目錄

- | | | | |
|---|----------------|------|-------|
| 一 | レッドトップ草種子 | 二等賞状 | 木妙豊松園 |
| 一 | 玉蜀黍 蘿蔔 玉葱 南瓜 | 同 | 吉田清憲 |
| 一 | チモセー草種 ヲーチャド草種 | 三等賞状 | 同人 |

明治十六年十一月廿六日

札幌県勸業課印

札幌農学校御中

〔農一二三〕

五二六 諸規則並に退学生徒氏名等交換に付回答

校第百卅号

十一月十六日付ヲ以御照会相成候諸規則及退学不品行生徒姓名等交互報道之件本校ニ於テモ同意ニ候条御来意之通時々交換いたし度此段及御回答候也

明治十六年十一月卅日

札幌農学校

駒場農学校

東京商船学校
御中

東京山林学校

「農一二」

五二七 明治一六年年報提出の件

学第拾七号

十六年々報添書

北苑整第八六八号御達ニ拠リ本年一月ヨリ十一月ニ至ル本校年報別冊之通謹而開申仕候也

明治十六年十二月四日

札幌農学校長代理幹事井川潤

管理局長安田定則殿

〔別紙〕

札幌農学校明治十六年々報十二月一日調

札幌農学校ハ旧開拓使ノ創設スル所ニシテ明治九年ニ開業シ農業ニ
關繫アル諸学科ヲ教授スルノ所トス客歲同使ノ廃セラル、ニ當リ農
（商務省ニ附セラレ農務局ノ所管タリシカ本年二月北海道事業管理局
ヲ置カル、ニ及テ本校モ亦同局ニ転轄セラレタリ然リト雖トモ爾來
諸規則ハ尚旧ニ依リ之ヲ施行シ惟教則中稍々英文等ノ時間ヲ減シ農
学獣医等ノ学科ニ於テ之ヲ増加セリ蓋シ世上教育ノ進歩スルニ伴ヒ
本校課程ノ等位モ随テ上進セシメントスルヲ以ナリ

職員ハ昨年太政官第五十六号御達ニ基キ校長及幹事ハ既ニ同年中ニ
拝命セント雖トモ未タ教員ニ及ハサリシカ本年ニ至テ数名ノ教員御
用係等ヨリ新タニ助教ニ任セララル、ニ至レリ又米国人教師兩名ハ本
年一月雇条約満期ナリシガ学科ノ都合ニ依リ未タ本邦人ヲ以代用ス

ル能ハサルヲ以テ上請允裁ヲ經テ更ニ來十八年一月マテ兩年間ノ雇
繼ヲ結約セリ現今教員ノ數ハ外国人農学及植物学ニ一名生理及英文
学ニ一名内国人化学ニ一名数学兼土木学ニ一名農業ニ一名兵学ニ一
名予科ニ四名總計十名ニシテ内一名本省准奏任御用係ノ外ハ皆本校
ノ助教ナリ但シ目今物理地質ノ兩科ニ於テハ未タ適當ノ教員ヲ得サ
ルヲ以テ既ニ其採用ヲ申請セリ

生徒ハ課程ニ随ヒ其学力大ニ上進セント雖トモ去明治十二年ニ於テ
ハ前年既ニ定員ニ充テ之カ為ニ本科生ノ新入学ヲ許サ、リシノ故ヲ
以定期四箇年ヲ經テ本年卒業スヘキモノ無カリシナリ本科新入学生
徒ハ昨年試験ニ合格スルモノ極メテ少カリシカ為ニ其招募ヲ延期シ
タルヲ以本年八月第一年級二十一名ノ入学ヲ許セリ内四名ハ本校予
備科ヨリシ他ハ皆ナ東京ヨリス但シ本年ニ於テモ尚ホ合格者少ク本
科生未タ定員ニ充タサルナリ

生徒現員ハ第四年級二十名第三年級二十三名第一年級二十一名小
計本科四十四名内一名私費生ニシテ他ハ皆貸費生トス予備科ハ第一
級ニ六名第二級ニ八名第三級ニ五名第四級ニ八名小計二十七名本科
生ト合計七十一名トス蓋シ予備科ハ定員ナク皆私費通学スルモノニ
シテ本地居住人ノ子弟其大半ヲ占ム

本校属園ノ目的ハ生徒ノ実験ニ供スルノミナラス側ラ北海道農家ノ
模範タラシメントスルニ在ルヲ以テ其規模モ単ニ試験ノミニ用フル

モノニ比スレハ更ニ洪大ナルモノトス本年栽培ノ植物ハ玉蜀黍燕麦
 蕎麥燕青豌豆南瓜防風胡蘿蔔球葱及其種子等ニシテ其播種ノ段別ハ
 四拾八町歩此内本年新ニ開墾セルモノ六丁余トス其他牧草地ニ属ス
 ルモノヲ五拾八町歩トス播種期ハ五月上旬ヨリ八月下旬ニ及ヒ收穫
 期限ハ七月ヨリ十一月ニ至ル收穫ハ之ヲ昨年ニ比較スルニ各種殆
 ト十分ノ二三ヲ減セリ此レ播種ノ季節不順ニシテ寒暖常ナク発芽ヲ
 損傷シ生長ヲ妨害セシト旱魃月ヲ果ネ結果充分ナラサリシニ源因ス
 ルモノトス穀菽ハ概ネ本園畜養動物ノ飼料ニ供スト雖トモ蔬菜種子
 類ニ至テハ其贏余ヲ売却シ以テ世ノ需用ニ応スルコトアリ植物循環
 法ハ毎歳之ヲ施行シ本年ニ於テハ從來ノ牧草地ニ玉蜀黍ヲ栽培シ玉
 蜀黍圃ニハ蕎麥ヲ耕作シ蕎麥地ニハ燕麦ヲ播種ス此レ土壤自然ノ滋
 養分ヲ平均シ地力ヲシテ損耗セサラシメンカ為ナリ
 瓦管排水法ハ客年ノ年報ニ記載セシカ如ク去十四年ヨリ実施セシカ
 本年ニ到テ其功驗殊ニ著ク從來卑湿ニシテ廃棄ニ附セシ土地ノ如キ
 モ皆一変シテ良圃トナリ許多ノ收穫ヲ生スルニ至レリ
 飛蝗ノ害ハ客歳ニ於テハ実ニ猖獗ヲ極メ人ヲシテ寒胆セシムヘキ景
 況ナリシモ本年ハ其飛翔輻輳スルノ少ナキト驅除ノ準備周到ナリシ
 ニ依テ幸ヒニ其残害ヲ免レタリ然リト雖トモ其間或ハ叢林荆棘ノ中
 ニ蟄伏シ産卵セシモノ無キニ非ス故ニ明年孵化ノ期節ニ至ラハ更ニ
 撲滅ノ策ヲ設ケサルヘカラス

地蚕ハ本年ニ於テ其発生極メテ少カリシカ為ニ氣候ノ悪シキニ拘ラ
 ス蕎麥ハ頗ル良結果ヲ得タリ

第四年生徒ノ試験栽培ハ例年ノ如ク教師ノ命スル所ニ随ヒ各々若干
 歩ノ園圃ヲ分担シ化学的肥料ノ適応穀菽蔬菜ノ耕作法等ヲ實際ニ研
 究セシカ季節不順或ハ旱魃等ノ為ニ正當ノ結果ヲ得ス終ニ其景況ヲ
 報告スル能ハサルハ遺憾ニ堪ヘス第一年及ヒ二年生ハ一般ノ事業ニ
 付テ演習セリ

動物ハ牛馬豚ノ三種ニシテ牛ノ出產スルモノ二拾二頭斃死スルモノ
 二頭胤牛トシテ売却スルモノ八頭ニ及フ其生長ハ皆極メテ良好ナリ
 シカ就中「アイシヤ」牛ノ蕃殖ハ頗ル迅速ニシテ其増殖ノ比例ハ十
 分ノ九ニ達シ近來漸世人ノ屬望スル所トナリ其需要ハ一年ヨリ加
 ハレリ然レトモ其胤牛ノ少数ナルカ為ニ自然近親交接ノ弊ヲ免ル、
 能ハス漸ク退歩ノ景狀ヲ呈スルニ依リ新ニ血統疎隔ノ胤牛壹頭ヲ購
 入シ倍々該種ノ改良ヲ図リ其蕃殖ニ随テ治ク世ノ需用ニ応セント欲
 シ既ニ之ヲ米國ニ注文セリ
 総テ牛ハ例年五月ヨリ十一月迄放牧シ十一月ヨリ五月迄ハ舍飼ニス
 其養法ノ一例ヲ左ニ摘録ス

牛十八ヶ月以上ノモノ一日ノ飼料	
品目	重量
牧草	二六斤
玉蜀黍	四斤
蕎麥	六斤
玉蜀黍	四斤
燕麥	二斤
油粕	一斤
鹽	四三斤
寢蒿	五斤

夕張号二千〇〇斤	一七、六	四三	四八	四、三	三、六	一〇八	〇、四一	五
----------	------	----	----	-----	-----	-----	------	---

右ノ養法ハ家畜ノ年齢ト重量トニ基キ飼料ノ種類ト分量ヲ定ムルモノニシテ元來欧米学士ノ実験スル所ナルガ今其結果ヲ本園ニ適用シタルニ其功驗実ニ著シ即チ十三年八月出生夕張号ノ昨年十二月十五日ヨリ本年四月三十日迄ニ増加シタル重量ハ左表ノ如クニシテ平均一日一斤二分ニ至ル

重量ヲ 秤リタル 月日	五年 五月 十五日	同三 年 八月 十五日	六年 一月 十五日	同 二月 一日	同 二月 十五日	同 三月 三日	同 三月 十七日	同 三月 三十日	同 四月 三日
夕張号	100斤	1100	1110	1130	1140	1155	1170	1185	1200

牛乳ノ搾出高ハ一月ヨリ十一月迄通計百五拾七石七斗六升八合ニシテ一ヶ月産出ノ量多キハ十八石少キハ拾七石ニ至ル毎月売却スル生乳ノ高ハ平均七石ニシテ其牛酪ニ製スルモノハ一ヶ月平均三石トス爰ニ搾乳表ノ一部ヲ抄録シテ毎頭一週間ノ搾乳量ヲ示シ併セテ「アイシャ」種ト短角種産乳ノ多寡ヲ対照シ以テ参考ニ供セントス

種類	名号	十月 廿一日	同 廿二日	同 廿三日	同 廿四日	同 廿五日	同 廿六日	同 廿七日
アイシャ	号	五、七六	五、七六	五、五五	五、五五	六四、二四	二四、一	一
同	四号	九、五九	八、七七	七八、二九	九			

同	五号	六、二五	七五、七五	七六、二五	三四、七
短角種	一五号	三、五三	二三、二三	二三、二三	三、一三
同	五号	一、二一	三一	一、二一	一一

右ニ掲クル兩種牛乳ノ実質ニ於テハ濃淡美惡ノ差ハ較々微ナリト雖トモ其産乳ノ量ニ至テハ懸隔セルコト甚大ニシテ短角種ノ「アイシヤ種」ニ及ハサルハ右ノ表ニ於テ明瞭ナリ故ニ今搾乳ノミヲ目的トスルモノハ必ス「アイシヤ」牛ヲ養育スルノ優レルニ如カス畜馬ハ至テ少数ニシテ唯生徒ノ参考ニ供スルニ過キス其本年ニ増殖スルモノ五頭トス

豚ノ繁殖ハ頗ル良結果ヲ得出産スルモノ二拾二頭ナリ火腿ハ三百斤余ヲ製シテ皆当地方ニ於テ売却セリ

家畜房ハ明治十年ニ建築セシガ卑濕過度ノ為メニ基礎ノ木材大ニ腐毀セシヲ以テ稟申ノ上石ヲ以テ之ニ代ヘ今ヤ殆ント落成ノ期ニ達セリ

右ハ本年ニ施行セシ業務ノ大要ニシテ所管ノ人員及植物家畜等ハ尚別表ニ詳カナリ

札幌農學校職員生徒及耕作物家畜一覽表月一日調

職員

校長 幹事	教員		属官	雇員	合計
	内 国 人	外 国 人			
一	八	二	二	一	三
二	二	一	三	四	一
三	一	一	一	一	一
四	一	一	一	一	一
五	一	一	一	一	一
六	一	一	一	一	一
七	一	一	一	一	一
八	一	一	一	一	一
九	一	一	一	一	一
十	一	一	一	一	一
十一	一	一	一	一	一
十二	一	一	一	一	一
十三	一	一	一	一	一
十四	一	一	一	一	一
十五	一	一	一	一	一
十六	一	一	一	一	一
十七	一	一	一	一	一
十八	一	一	一	一	一
十九	一	一	一	一	一
二十	一	一	一	一	一
二十一	一	一	一	一	一
二十二	一	一	一	一	一
二十三	一	一	一	一	一
二十四	一	一	一	一	一
二十五	一	一	一	一	一
二十六	一	一	一	一	一
二十七	一	一	一	一	一
二十八	一	一	一	一	一
二十九	一	一	一	一	一
三十	一	一	一	一	一
三十一	一	一	一	一	一
三十二	一	一	一	一	一
三十三	一	一	一	一	一
三十四	一	一	一	一	一
三十五	一	一	一	一	一
三十六	一	一	一	一	一
三十七	一	一	一	一	一
三十八	一	一	一	一	一
三十九	一	一	一	一	一
四十	一	一	一	一	一
四十一	一	一	一	一	一
四十二	一	一	一	一	一
四十三	一	一	一	一	一
四十四	一	一	一	一	一
四十五	一	一	一	一	一
四十六	一	一	一	一	一
四十七	一	一	一	一	一
四十八	一	一	一	一	一
四十九	一	一	一	一	一
五十	一	一	一	一	一
五十一	一	一	一	一	一
五十二	一	一	一	一	一
五十三	一	一	一	一	一
五十四	一	一	一	一	一
五十五	一	一	一	一	一
五十六	一	一	一	一	一
五十七	一	一	一	一	一
五十八	一	一	一	一	一
五十九	一	一	一	一	一
六十	一	一	一	一	一
六十一	一	一	一	一	一
六十二	一	一	一	一	一
六十三	一	一	一	一	一
六十四	一	一	一	一	一
六十五	一	一	一	一	一
六十六	一	一	一	一	一
六十七	一	一	一	一	一
六十八	一	一	一	一	一
六十九	一	一	一	一	一
七十	一	一	一	一	一
七十一	一	一	一	一	一
七十二	一	一	一	一	一
七十三	一	一	一	一	一
七十四	一	一	一	一	一
七十五	一	一	一	一	一
七十六	一	一	一	一	一
七十七	一	一	一	一	一
七十八	一	一	一	一	一
七十九	一	一	一	一	一
八十	一	一	一	一	一
八十一	一	一	一	一	一
八十二	一	一	一	一	一
八十三	一	一	一	一	一
八十四	一	一	一	一	一
八十五	一	一	一	一	一
八十六	一	一	一	一	一
八十七	一	一	一	一	一
八十八	一	一	一	一	一
八十九	一	一	一	一	一
九十	一	一	一	一	一
九十一	一	一	一	一	一
九十二	一	一	一	一	一
九十三	一	一	一	一	一
九十四	一	一	一	一	一
九十五	一	一	一	一	一
九十六	一	一	一	一	一
九十七	一	一	一	一	一
九十八	一	一	一	一	一
九十九	一	一	一	一	一
一百	一	一	一	一	一

生徒

本科	同第三	同第二	同第一	予備科	同第二	同第三	同第四	合計
四年級	年級	年級	年級	第一級	第二級	第三級	第四級	合計
二〇	一三	〇	一一	六	八	五	八	七一
一〇	一三	〇	一一	六	八	五	八	七一

土地

墾成地	建物地	荒蕪地	惣面積
三拾三万五千五百五拾八坪六合二勺	五百六拾六坪五合五勺	百拾二万九千九百拾七坪三合八勺	百四拾六万五千四百七拾坪

農具

品名	個數
犁類	二六
耕耨器類	一〇
播種器類	六
耙耨器類	六
刈草器類	一七〇
鋤鉞類	三五
運搬用具類	六
脱粒器類	七
鋸斧具類	七
製造秤類	九四
雜品	八二
合計	一、九一

耕作物

種目	播種面積	收穫	一反平均	一段ニ付昨年ニ比シ増額	昨年ニ比シ減額
燕麥	一二町二反	二七〇石	二石二二三	石七二二	石七二二
玉蜀黍	二二二	三六五	一石七一八	石〇二七	二噸六二
蕎麥	五四	四三六噸五九	八噸八五〇	ナシ	ナシ
豌豆	四	五石〇六	一石二六五	一噸六五	ナシ
胡蘿蔔	二	七噸五	三噸七五〇	一噸六五	ナシ
玉葱	二	一、六四	、八二	一噸〇五	、五九五
防風	八	一五、二四	一、九〇五	、五九五	、五九五
南瓜	一〇	一二、三九	一、二三九	一噸八二	、五四六
馬鈴薯	二	、五	、二五	、五四六	、五四六
燕麥	五〇	三五、四八	、七一	、五四六	、五四六
諸菜種	四	四九一斤	一四五、五斤	、五四六	、五四六
牧草	三〇〇	一七〇噸	噸、五六六	、五四六	、五四六
牧草種	二六	一五四八斤	五九、五斤	、五四六	、五四六

動物

種 名	牛		同短角種	同洋和合血種	同和種	馬洋和合血種	同南部種	豚チエスタル ホワイト種	同雜血種	計
	牝	牝								
式歳以上	二二	一一	五	一	六	三	四〇			
式歳以下	四	七	五	八	一	一	三四			
現在物数	一〇	六	四	三	二	一	三七			
産出	七	八	三	一	七	三	三九			
	三三	三三	一七	八	七	一五	一五〇			
	一四	五	三	四	一	二	四九			

牛乳産出

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	惣計
二、〇三五 石、五七	三、二三五 石、四三	四、三〇〇 石、五一	三、〇六五 石、四三	二、九〇〇 石、六一	四、四七五 石、四三	六、〇五 石、五七	六、八三 石、五三	四、〇〇五 石、四六	三、八四 石、四六	二、五〇 石、三八	三、七六 石、四六

五二八 自費留学生荒川重秀佐藤昌介を農商務省に採用の上

米国在留申付の儀伺

明治十六年十二月十七日

管理局長 印印

卿 印

輔

書記官 印印

荒川重秀外名採用等ノ義伺

米国自費留学生札幌県平民荒川重秀外一名採用ノ義別紙太政官御伺
濟ニ付テハ右御辭令并米国滯留中心得方命令書按共左ニ取調此段相
伺候也

御辭令按「十二月廿日達濟」
〔朱書〕

各通

荒川重秀

佐藤昌介

農商務省御用係申付候事

但取扱判任ニ準シ米国滯留中為手当壹ケ年銀貨六百円給与候事

年 月 日

各通

農商務省

前同人

米国滯留申付候事

年 月 日

農商務省

命令書按「十二月廿日達濟」
〔朱書〕

各通

農商務省御用係 荒川重秀

佐藤昌介

今般米国游学中同国滯留相達候ニ付テハ左之条款ノ通可相心得此旨
相達候事

明治十六年十二月 日

卿

第一款

米国滯留年限ハ自今滿二ケ年間ト予定シ帰朝ノ上ハ札幌農学校ヘ奉
職スヘキ義ト相心得農学上須要ノ事項ヲ調査スル事

第二款

彼地農業上ノ実況ヲ查察シ就中北海道開拓殖民上ニ関スル有益ノ方
法ヲ具申スル事

第三款

凡ソ農工商業ノ景況參考ト為スヘキ事柄ハ見聞ノ時々詳細報告スル
事

〔別紙〕

三〇四号

米国自費游学採用ノ上直ニ在留ノ義伺

米国自費游学山形県平民佐藤昌介并札幌県士族荒川重秀義ハ旧開拓

五二九 本科予科課程表

明治十六年農商務省附屬之時本校課程

化学	農学		農学校 本科 学科表	
	実農 驗業	農 学	前 期	第一 年 級
化学 理及 無機 物	六	四	毎週 時間	
六	実農	農	後 期	
実化 驗学	習業	学	同	
八	六	四	前 期	第二 年 級
実驗 有機 化学	実農 習業	農 学	同	
四	六	四	後 期	
析及 農用 定量 分析	実農 習業	農 学	同	
四	三	三	前 期	第三 年 級
	実農 驗業	農 学	同	
	限定無	三	後 期	
	果樹 栽培 実驗	農 学	同	
	二	三	前 期	第四 年 級
	農 学	三	同	
	農 学	四	後 期	
	四		同	

使札幌農学校ニ於テ卒業ノ上同使ニ奉職引続キ当省ヘ採用致居候処
孰レモ非常篤志ノ者ニシテ此上実地ニ就キ農学ノ蘊奥ヲ極メ度素志
ヲ以テ昨夏中辭職ノ上自費ヲ以米國ヘ游学爾後勉勵苦学將來有望ノ
人物ニ有之且在紐育高橋領事ヨリ事情申立ノ次第モ有之此際当省御
用掛ニ採用致シ北海道拓地殖民上有益ノ事項調査報告ノ為メ大凡二
ケ年ヲ期シ直ニ同國ヘ在留為致度尤モ一人老ケ年正貨六百弗宛手当
トシテ支給ノ見込 滞在日當諸賄料
等ハ總テ給セヌ ニ付本年度ハ北海道事業管理局經費
内ヲ以流用時価交換支辨シ爾後ノ分ハ其年々予算ニ編入候様致度候

条至急允裁相成度此段相伺候也

明治十六年八月十七日

農商務卿西郷從道

太政大臣三条実美殿

〔朱書〕
「伺之趣聞届候尤来年度以降ニ於テモ夫カ為メ別段經費増額等不相
成儀ト心得ヘシ但正貨ノ儀ハ大藏省ニ就キ時価ヲ以テ交換スヘシ

明治十六年十二月八日」印(太政大臣官印)

〔道〇八六一二〕

[illegible]

